

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 8日

事業所名 はぐハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	フロアマットで過ごす児童が多い時は別の場所にマットを敷いて密にならないようにしている	基準以上のスペースは確保し、バギーや座位保持椅子の置き場など環境整備しスペースを広げていく
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準以上の専門職職員を配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	ワンフロアで段差がなく、玄関の段差のあるところはスロープになっている	定期的に見直し、検討を行っていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	支援や業務の振り返りを行い必要に応じて改善出来るよう職員で話し合いを行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	評価表をもとに支援員間で話し合いをしている。送迎時等に保護者様より意向を把握した際に支援員間で話し合いをしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ等で公開している	
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	施設内外の研修に参加している。参加出来ない場合も資料配付、伝達研修を行なっている	
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	モニタリング用紙や日頃の会話より子どもと保護者のニーズを把握している	保護者様からのアセスメントをもとに職員全体で検討し支援計画の作成を行っていく
	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	適応行動を評価する際はVineland-II 適応行動尺度を利用している	アセスメントツールについて全職員が活用出来るよう勉強会を行なっていく
	10	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	保育士、理学療法士、看護師を中心に行なっている	
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	個々の特性や状況、季節を考慮しプログラムを作成している	
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	活動の時間に合わせて設定している	休日や長期休暇には普段出来ない内容や行事を設定していく
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々の状況を見ながら個別活動と集団活動を組み合わせた計画をたてるようにしている	
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼で行なっている。参加出来ない職員へは申し送りしている	
	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後は職員が揃う事が難しい為、日々の記録を残し共有している	
	16	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	利用毎の記録と個々の記録を残している	
	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	必要に応じてモニタリングを行なっている	
18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	ガイドラインの基本活動を参考に支援を設定している		

関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達管理責任書に限らず状況に合わせふさわしいと考える者が参画している	
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時、担当者会議等で学校との情報共有をおこなっています	
	21	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	主治医からの医療情報連携用紙をお願いし、必要に応じて連絡をとっている	
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	88%	13%	必要に応じて対応している	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%	必要に応じて情報の提供を行なっている	
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%	機会があれば積極的に参加している	
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	地域の公園で交流をもったりイベントに参加している	
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	積極的に参加している	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている	
保護者への説明責任等	28	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時や質問があった際には丁寧に説明するよう心がけている	
	29	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリング時や悩みや困りごと等の相談があった時は寄り添い傾聴や助言を行なっている	
	30	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		苦情があった際には職員間で状況の確認を行ない保護者様に説明しその後職員間で話し合い改善、再発防止に努めている
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	38%	63%	おたよりの作成や携帯での写真送付により活動時などの様子を伝えている。	
	32	個人情報に十分注意している	100%	0%	取り扱いには十分注意し同意書に沿って使用している	
	33	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個々に合わせた意思疎通、情報伝達に努めている	
	34	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		感染症対策等の理由で機会が持てなかったが今度交流を図っていく

非常時等の対応	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		職員、保護者向けにまとめたマニュアルを配布している
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に避難訓練を行ない消防署にも報告している	
	37	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修への参加と施設内での研修を行なっている	
	38	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	支援計画への記載と職員間での検討、保護者への説明と確認同意のもと行なっている	
	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書をいただき保護者様からも聞き取りを行ない対応している	
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	全職員が積極的に取り組み事例検討を行なっている	